



はらった いはいき あったかい
高知家の教育

令和に求められる資質・能力を育成する授業づくりへの羅針盤

～授業で力をつける～



発行

R6年8月1日

西部教育事務所



令和5年度より、清水中学校は「高知の魅力発信グローバル人材育成事業」の指定を受け、清水小学校、清水高等学校と連携して12年間の学びのつながりを意識した地域で一体となった英語教育の推進を図っています。今年度は2年目となり、授業づくりはもちろん、小中高連携 CAN-DO リストの作成及び活用を目指しています。

教材研究会 令和6年5月30日(木) 第1学年 Unit3 Club Activities～Unit 4 Friends in New Zealand

単元の目標:カリフォルニアの同年代の子どもたちと仲良くなるために、自分のことを話したり、知りたいことを質問したり、相手からの質問に答えたりすることができる。

単元のゴール活動:カリフォルニアの子どもたちと仲良くなるために、インターネット電話で話をしよう!

(学習指導要領) 話すこと【やり取り】イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

Unit 3 Club Activities

【第1時】目標

自己紹介の内容を伝える相手に応じて変える必要があることに気づき、内容を整理することができる。

【第2～7時】目標

仲良くなるために、ある程度の会話の継続が必要であることに気づき、そのために、リアクションをしたり、聞き返したりできる

Unit 4 Friends in New Zealand

【第8～11時】目標

お互いにより多くのことを知って仲良くなるために、相手のことや、話している文脈に沿った質問をすることができる

【第12時】目標

仲良くなるために、自分のことを話したり、知りたいことを質問したり、相手からの質問に答えたりすることができる



提案者: 谷岡大洋教諭

第1時における生徒の姿
Hello. Nice to meet you.
My name is Tomohiro Tanioka.
I like music.
I can play the drums.
And I like sports.
I'm in the soft tennis team.
My treasure is a tennis racket.

授業者からの提案

①やり取りの力を育成するための練習と言語活動

【理解や練習】

- ・場面のある教科書本文で言語材料を理解
- ・教科書の音読
- ・Q&Aカードでのやり取り

check

帯活動の活用

【言語活動】

単元ゴール活動の言語活動と同じ言語の働きをもつ言語活動

言語活動の繰り返し

やり取りの力を育成するためには、まずその基盤となる基礎的な力が必要です。その基盤となる力を育成するためには言語材料の理解や練習が大切であり、帯活動などを活用し、基礎的な力の習得を単元を通して行う必要があります。また、それに加えて実際に目的や場面、状況が設定された言語活動の「両輪で」資質・能力を育成する必要があります。これらを単元を通して繰り返すことでやり取りの力の育成を図ります。

授業者からの提案

②生徒の個別最適・協働的な学びを充実させる Level Up Time

- ・これまでに学習した内容の中で、自分自身がレベルアップするための学習方法を各自が選択し、取り組む。
- ☆ペアと相談・練習
- ☆教科書を読む
- ☆これまでの学習で使用した動画を見返す
- ・ペアで会話練習を行う。タブレットを用いて撮影し、自己チェックを行う。(指導案より)

check

生徒自身が学習方法を選択し、それぞれが自らの学習を調整しながら単元ゴールに向かうためには、生徒が問いや目的を持っていることが大切です。指導案では単元ゴール活動として「カリフォルニアの子どもたちと仲良くなるために、インターネット電話で話をしよう」という本物の活動を設定し、「相手意識」と「目的」を明確に示しています。

目指す生徒の姿

S: Hello! Nice to meet you!
I'm Tomohiro Tanioka.
I'm in the soft tennis team.
What do you like?
I like music. I can play the drums.
And I like anime.
C: Hi. I'm Martin. Nice to meet you too.
I like baseball.
I'm on the baseball team.
I like Shohei Otani.
S: Me too! I want to watch his game.
C: I watched it last week!
And I like anime too.
S: Anime? Really?
What anime do you like?
C: I like "ONE PIECE."
Do you know "One piece"?
S: Yes, I do!

資質・能力の育成につながっている点

- 単元ゴール活動に向けて言いたいけど言えない状況を意図的に作り出すことで意欲を持たせている
- 明確な目的や場面、状況から言語活動が見える
- レベルアップタイムに生徒の個別最適な学び・協働的な学びの場面が見える
- 単元を通して会話の質が高まっている

協議後のグループ発表より



疑問点・改善点

- 生徒は小学校でもリアクションフレーズを学習しているので、もっと高いレベルを求めてくるのではないかな
- ゴール活動の相手がネイティブスピーカーなので、会話が止まって気まずい場面についても指導できたらよりリアルな会話になるのではないかな
- 深く知り合うためには目指す生徒の姿での疑問詞などの表現が少ないのではないかな
- 本時のめあての「盛り上がる」よりも「もっと知りたい」という気持ちになることが必要ではないかな
- 指導案では数時間が一つのまとまりで書かれているが、1時間ごとに生徒につけたい力はどのように見取るのか

令和6年6月24日(金) 授業研究会 第7時

①Q&A カードでのやり取り



【山田先生より】
帯活動でのQ&Aカードを使ったやり取りの練習が言語活動に生きている。今後は、生徒自身に質問を考えさせ、やり取りするようにしていくといい。

生徒はQ&Aカードに書かれた質問からやり取りを始め、相手の答えを受けて、さらに質問をしようとしていました。話した後はカードを交換し、次の相手を見つけてやり取りを行いました。この帯活動を継続してきたことで、本時の言語活動でも生徒からたくさんの疑問文が出てきました。

⑤Level Up Time

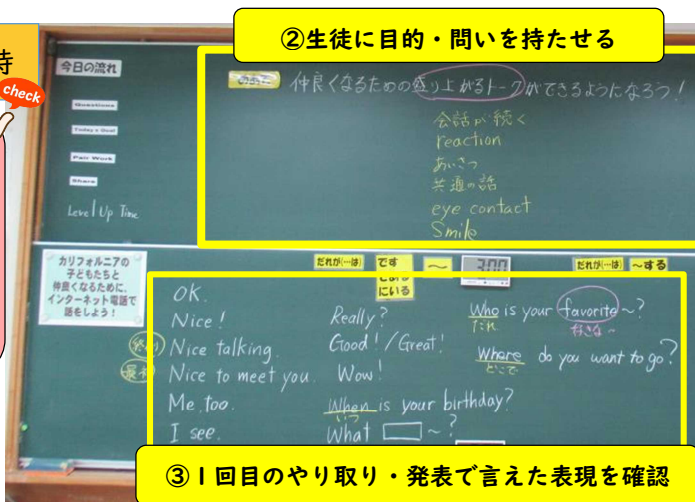


個別最適な学び・協働的な学びの充実

生徒一人一人がそれぞれの課題に向かって学習方法を選択し、主体的に学び進めることができるように生徒に学習を委ねる時間を設定していました。教科書でこれまでに学習した表現を確認する生徒、辞書で分からない単語を調べる生徒、ノートを開き、これまでに学習した英文を復習する生徒、一人一台端末で教師とALTのやり取りの動画を確認する生徒、ペアで尋ね合う生徒など、様々な学びの姿が現れました。

【山田先生より】
「インプット→アウトプット→インプット」という過程が大切である。言語材料、構成をインプットした後、アウトプットさせることで終わらせず、書いた英文を再度インプットすることが大切である。今日の授業でもこれまでのSmall Talkの後、ノートに書きためた英文を見返す姿があり、しかも生徒が自発的に行うことができていた。個別最適な学びに挑戦した一つの成果である。

②生徒に目的・問いを持たせる



③1回目のやり取り・発表で言えた表現を確認

④学習方法を確認

「カリフォルニアの子どもたちと仲良くなるために」という目的から生徒の問いを引き出し、1回目の言語活動を通して生徒一人一人に目的達成のための課題意識を持たせていました。そして、その課題を解決するためには、どのような学習方法が考えられるのかを確認しました。

【山田先生より】
生徒が自らの学びを調整しながら学び進めていくことがこれからの授業の主流になる。しかし、ただ時間を与えても自ら学習できる生徒は一握りなので、まずは学ぶ方法を教える必要がある。

GTECで結果を出した学校の授業の共通点

- ①先生が英語をいっぱい使っていること
- ②生徒の活動量(4技能)がたくさんあること
- ③インプットが十分にあること
(ベネッセ・上智大学の研究より)

講師：山田誠志教授

⑥2回目のやり取り



⑦発表・中間指導



Level Up Timeでの学習をもとに、やり取りの力を高めるために2回目の言語活動を行いました。指名されたペアが発表し、谷岡教諭が中間指導で、bigger reaction、smileについて確認しました。谷岡教諭は、1年生の1学期という段階を考慮して、生徒のやり取りがコミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じた内容となっているかという内容面への指導ではなく、まず、生徒にできる限りたくさんの「量」の英語を話させることに重点を置いて指導をされていました。また、発表の場面で、正しい英文をどのように言ったら良いのか分からない生徒には、黒板にある語順カードを示しながら、生徒が正しい語順で英文が言えるように「正確性」を高めるための指導も行っていました。

S1: Hello.
S2: Hello.
S1: Nice to meet you.
S2: Nice to meet you.
S1: My name is ○○. What's your name?
S2: I'm □□. What time is it now?
S1: It's 2:05 p.m. What country are you from?
S2: 私がカリフォルニア?
I'm from Japan.
S1: Oh, I see. When is your birthday?
S2: My birthday is July 24. When is your birthday?
S1: My birthday is May 23.
S2: Oh, I see. What season do you like?
S1: I like summer and autumn.
S2: Oh, why?

S1: It's because river in swimming.
T: 誰が泳ぐが?
S1: あ、I swim...
T: どこで? (語順カードを示す)
S1: I swim in the river.
S2: Do you like swimming?
S1: So-so.
S2: OK. I see.
S1: What season do you like?
S2: I like autumn.
S1: Why?
S2: It's because its delicious food and it's cool.
S1: I see. Thank you.
S2: Thank you.

【山田先生より】
文構造への指導ができていた。語順カードを使って生徒に正しい英文を言わせていた。短い時間だが、正確性を高めるうえで、このような指導はとても大事である。

⑧ALTからの質問

Where do you eat delicious food?
When do you swim in the river?

さらにやり取りの力を高めるために、ALTが生徒の発表内容に対して疑問詞を使って質問し、実際にやり取りを行うことで、生徒のインプットとしていました。

⑨ふり振り返り

生徒はふり振り返りをスプレッドシートに打ち込みました。めあてに対してできたこと、できなかったことやこれから言いたいこと、知りたいことなどを端末上でお互いに見合いながら授業を振り返ることができていました。

【山田先生より】 生徒の「私がカリフォルニア?」という発言などから生徒が言語活動の「相手意識」を持っていることが伺えた。どちらがカリフォルニアの子どもなのか明確に立場の設定をするべきだったが、本単元でのこれまでの「相手意識」を持たせる指導が生きていた。